

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500063		
法人名	株式会社瑞穂介護センター		
事業所名	グループホームあいる弥富 きんぎょ		
所在地	愛知県弥富市森津9丁目14番地8		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jig_yosyoCd=2397500063-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和2年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者とコミュニケーションを取りながら楽しく笑顔で過ごして頂ける様日々取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームが立地している地域は、田園がひろがっている地域でもあることで、利用者が日常的にホームの近隣を散歩をすることができる環境にある。現状の感染症問題があることで、利用者の外出は困難になっているが、日常的に散歩をすることができることで、利用者がホームの外に出る機会にもつながっている。ホームの敷地についても広い敷地が確保されていることで、利用者の中には、庭の手入れをしている方もあり、気分転換にもつながっている。災害対策に関する取り組みについては、ホームの隣りに開設しているグループホームとの合同の訓練を実施しており、非常災害時には事業所の枠を越えた対応を行うことができるような取り組みが行われている。また、外部の方との交流については、近隣の介護事業所との交流も行われており、近隣の方にホームを知ってもらえる機会にもつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	【全てはご利用者の為に】という理念に基づいてケアの組み立てをしていく努力をしている 会議の際はご入居者の想いは何か、を意識するようにしている	開設時からの理念を職員の支援の基本と考えながら、管理者からも利用者を中心とした支援の働きかけが行われている。また、職員のスキルチェックの取り組みも行われており、職員の理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流は出来ていない どんぐりの里様と年1回防災訓練をしたり、近隣の幼稚園児が敷地内に散歩へ来ることがあり、挨拶程度の交流はあり	ホームは町内会に入り、回覧板等を通じて地域の活動の情報を得ながら、地域の方との交流の機会につなげている。また、ホーム近隣に開設している介護事業所や幼稚園との交流の機会がつけられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	5月、7月は通常開催が出来ず、書面で報告し、ご意見を伺いサービスの向上に努めている	会議の際には、ホームの運営状況の報告を行いながら、出席者にホームの現状を知ってもらう働きかけが行われている。また、毎回の会議に市担当部署の職員が出席しており、定期的な情報交換にもつなげている。	会議の出席者が限られた方で行われていることもあり、開催の曜日等の検討が行われている。感染症問題が落ち着いた際には、関係する方への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者を通して行っている	市内の介護事業所が集まる連絡会が開催される際には、ホームからも職員が参加する機会をつくり、定期的な情報交換につなげている。また、生活保護の方を通じた情報交換等も行われており、不明点等の解決につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会のメンバーを中心に定期的に会議を行い、スタッフ全体で議事録を通して共有している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がユニット間の移動が自由でできることで、職員間での連携した対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討やオンライン研修を活かした職員指導が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修にて高齢者虐待について学習している 声掛けの内容が虐待に当たっていないか、入浴時に全身チェックをし介助方法に無理が無いかなを確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	出来ていない 今後研修を実施していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、リーダーがご家族の面会時やお電話などでご意見を伺うようにしている	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行い、家族との交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、運営法人の幹部職員による対応も行われている。また、新たに利用者一人ひとりに宛てたホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談やユニット会議などに参加し意見を聞くようにしている	ユニットにリーダーを配置し、リーダーを中心に日常的な職員からの意見等の把握を行い、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による個別面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境の改善や整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は毎月行われており、全スタッフが学べる環境が整っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	出来ていない 今後連絡会議が再開されれば参加したい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人やご家族からお話を聞きながら、安心して生活して頂ける様全職員に情報共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前やご利用者の状態に変化があった時などご家族に連絡を取り、お話を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	モニタリングを実施し、必要なサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者の要望をお聞きし、一方的にならない様取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族参加のレクリエーションを企画し、一緒に楽しめる場面を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人が面会に来てくれることもあり	利用者の中には、入居前の関係の方がホームに訪問したり、手紙が届く方もあり、馴染みの関係の継続にもつながる機会が得られている。また、家族の協力も得ながら、行きつけの美容院を継続したり、身内の方の墓参り等に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士で交流が持てる様席を工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出来ていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普通の会話から、希望や意向把握できるよう意識している。意思伝達が困難な方には、表情などから読み取る努力をしている	日常的に行われている申し送り等の時間も活用しながら、利用者に関する情報を職員間で共有する取り組みが行われている。また、定期的なカンファレンスを実施し、利用者の意向等を職員間で検討し、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にアセスメントしている その他でも、ご本人やご家族から聞き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、ご利用者の状態把握に努め、記録を残し情報共有している 会議等でケアの組み立てを検討している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議でご利用者のケアについて話し合いを設けている 日々の様子や会議の内容を基にプランに反映してる	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常の支援を通じた毎月のモニタリングを実施しており、3か月での評価が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は記録に残し、情報共有している プランと実情が乖離していないか確認するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	努力はしているが、まだまだ不十分である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	クリスマス会にはボランティアに来ていただいた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診に加え、ご入居者の状態に合わせて、適宜主治医に相談している	訪問診療専門の医療機関との連携が行われていることで、利用者の健康状態等にも合わせた医療面での柔軟な支援が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員には都度ご入居者の体調に関して相談をしており、ご家族や主治医とも連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーやご家族と連携を取りながら情報共有を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	体調悪化等都度ご家族と情報共有をし、必要なケアが提供できるよう取り組んでいる	ホームでは、利用者の身体状態等に合わせた支援を行いながら、利用者、家族の意向に合わせた話し合いが行われている。利用者の中には身体状態が重い方も生活を継続しており、医療機関等への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回訓練を行い、内1回はどんぐりの里様と合同で訓練を行っている	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。ホームの隣りにあるグループホームとの合同の訓練を実施する等、事業所間での連携にも取り組んでいる。備蓄品については、入れ替えを行っている最中である。	ホームの近隣地域に民家がないため、非常災害時には、隣りにあるグループホームとの協力関係が重要になってくるため、現状の取り組みを継続していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を傷つけない様な声掛けが出来る様努力している	ホームでは、職員の接遇に関するチェックを行っており、職員による利用者への対応や言葉遣い等を確認する機会につなげている。日常的にも利用者を尊重した対応を行うように注意喚起等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いを汲めるよう意識しながら関わる様努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは決まっているものの、強制することなくご本人のペースが守られるよう努力しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で判断する方は、お任せしています マニキュアでおしゃれしたい方もいらっしゃるので、希望に沿ってお手伝いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者と味噌汁を作ったり、食器の片付けをしてもらうこともある	食事については、おかず類は外部業者から提供しているが、ご飯と汁物をホームで用意していることで、利用者もできることに参加する機会がつくられている。おやつ作りについては日常的に行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量は記録に残し、不足する部分は補えるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの声掛けや介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	記録を参考にし、本人に合った排泄介助や適切なオムツ使用かどうか検討している	利用者全員の排泄記録を残し、職員間で日常的に情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、日中と夜間で対応を変える等、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝排便の把握をし、便秘飲み物の工夫や運動の促しをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日は施設都合で決めてしまっているが、時間は本人の希望に添える様配慮している	利用者が週3回を基本に入浴ができるように、利用者の状況や希望等にも合わせた対応が行われている。浴室にリフトの設置が行われており、身体状態に合わせた支援も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の判断で部屋で休んでもらっている判断が難しい方は、職員の判断で体を休めてもらえるよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報は職員がいつでも閲覧できるようになっている 服薬支援は誤薬の無いよう何重にもチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者にあつた役割や楽しみが提供できるよう努力している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	レクリエーションの企画として外出に行くことはあるが、個別性をいかすところまでは出来ていない	現状の感染症問題があることで利用者の外出は限られた範囲となっているが、周囲に民家がないことで、近隣を散歩する等の支援が行われている。昨年は、年間を通じて外出行事が行われており、季節に合わせた外出や外食等の機会がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理をしている方はおらず		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナウイルスの影響でご家族と会えないため、ご家族に手紙を書いてもらいました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の作品を掲示したり、ご利用と一緒に作った季節に合った飾りを掲示することで生活感のある空間を作っている	ホーム内はゆったりとした空間が確保されており、利用者が毎日の生活で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。庭も広いこともあり、現状、遊歩道の整備を行っている。また、利用者の作品を掲示する等の雰囲気作りも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と過ごせる様レイアウトを変更したり、席替えも行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	レクリエーションで作った作品や写真、ご本人の拘りの物を自由に掲示してもらっている	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた、家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室作りが行われている。また、居室にクローゼットが設置されてあることで、車椅子の方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に配慮し自立した生活が送れるよう環境整備に取り組んでいる		